

クラウド利用で何が変わるのか
～クラウド利用のメリットとセキュリティの確保について～

日本マイクロソフト株式会社
チーフセキュリティアドバイザー
高橋 正和

2006年にAmazonが商用クラウドを開始してから既に6年が経過し、現在では多数のクラウドサービスプロバイダーが多様なサービスを展開している。IT管理者は、有力なITインフラの利用形態として、クラウドサービスを選択することができるようになり、エンドユーザーは、特にクラウドと意識せずに、クラウド上で構築された多様なサービスを利用している。一方で、クラウドサービスを利用することに対するセキュリティ上の懸念も根強いものがある。

当セッションでは、クラウドの定義と特徴を整理し、クラウド利用する上で期待されるメリットを考察し、クラウドの利用によって、どのようにITインフラ利用が変わっていくかについて考察する。

次に、取り扱うデータによって変動するセキュリティ要件を検討し、クラウドサービスを利用する上での具体的な懸念点に対する、クラウドサービスプロバイダーが実施する対策と、利用者が実施すべき対策について解説する。

当セッションのアジェンダ

- クラウドの歴史を振り返る
- セキュリティを考える前にクラウドの特徴を確認する
- 何のためのセキュリティか
- クラウドの形態と責任分界点と利用のメリット
- 取り扱うデータと必要とされるセキュリティレベル
- クラウドサービス利用における主要な懸念点
- セキュリティとセキュリティに関連する事項
- Windows Azureにおけるセキュリティの実装
- むすび